
コレクティブ・インパクトの進化

第6回CI研究会

本日の目的と内容

■ 目的

❖ コレクティブ・インパクトに関する考え方の変化や、プロジェクト分析するための参考となりそうな情報を提供すること。

- ◆ コレクティブ・インパクトとは
- ◆ コレクティブ・インパクトへの関心
- ◆ コレクティブ・インパクト3.0

コレクティブ・インパクトとは

❖ 「特定の社会課題を解決するための共通アジェンダに対して、多様なセクターの重要なアクターによるコミットメント」 (Kania and Kramer, 2011, p.36)

♦ 5つの条件

①共通アジェンダ

②共通の評価システム

③相互に補強し合う活動

④定期的なコミュニケーション

⑤バックボーン組織

コレクティブ・インパクトへの関心

- ❖ Amazonで「コレクティブ・インパクト」に関する書籍を検索すると、わずか**11件**。
- ❖ タイトルあるいはテーマに「コレクティブ・インパクト」と明示されているものは**1冊**のみ。
- ❖ 社会変革やソーシャル・プロジェクトの書籍はいくつかある。

コレクティブ・インパクトへの関心

Q. 日経四紙で、これまでコレクティブ・インパクトに関する報道は何件あったでしょう？

検索ワード：コレクティブ・インパクト, コレクティブインパクト

正解は…**1件**

※ニュース・アーカイブを含めても2件※

日本ではコレクティブ・インパクトについて、
多くの人々が理解しているとは言い難い。

コレクティブ・インパクト3.0

■ カバジ=ウィーバー (2016)

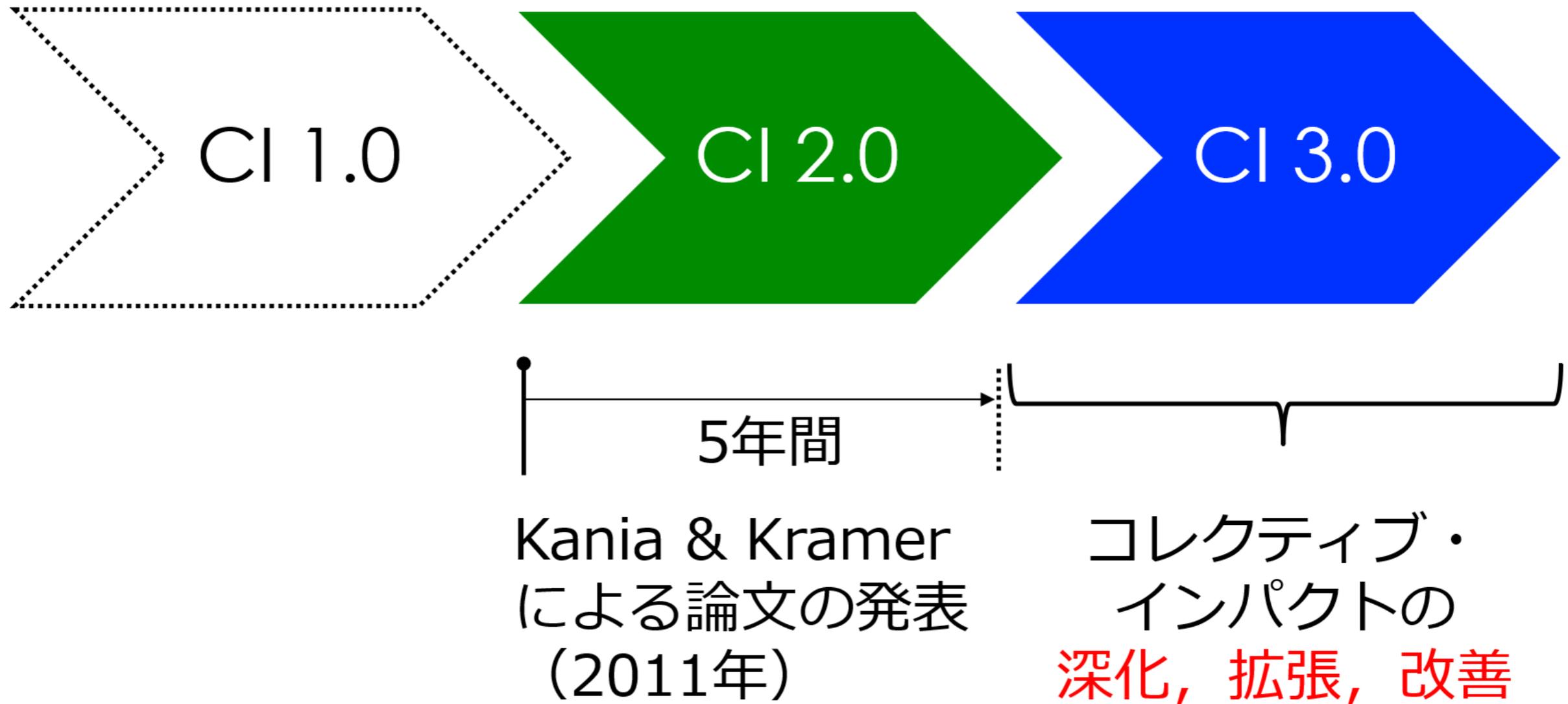
❖ コレクティブ・インパクトをアップデートする必要があることを指摘。

◆ 理由1：コンセプトの不足点が明らかになってきたため。

◆ 理由2：他のコミュニティの変革のフレームワークが注目されてこなかった。

コレクティブ・インパクト3.0

■ コレクティブ・インパクトの3つの段階

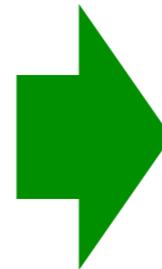


コレクティブ・インパクト3.0

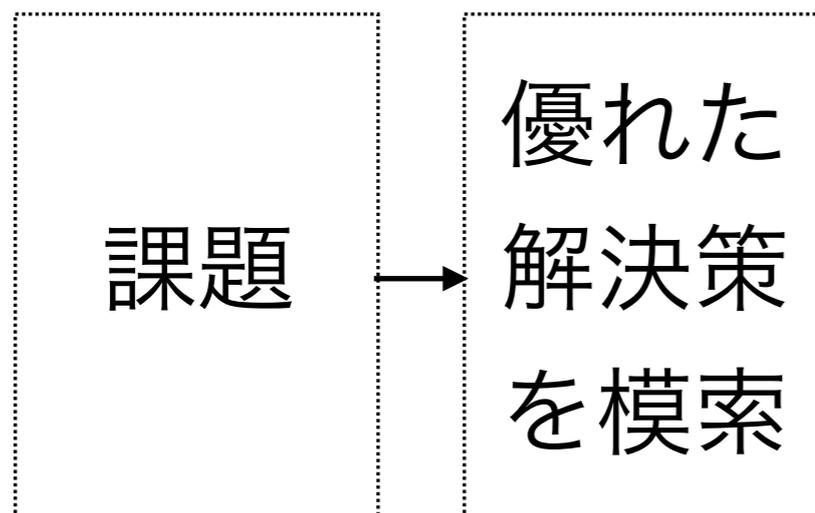
■ リーダーシップ・パラダイムのアップデート

❖ マネジメントから**ムーブメント**へ

既存の
社会システムの
改善に焦点



システムの**改革**・
変革に焦点



- ◆ ムーブメントは、日常の政治的な取り組み、マネジメントの土台を変化。
- ◆ インパクトを及ぼす可能性が高まる。

コレクティブ・インパクト3.0

■ 5つの要素のアップデート

共通のアジェンダ

コミュニティの願い

共通の評価システム

戦略的な学習

相互に補強し合う活動

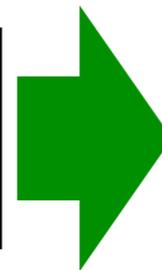
効果が最大になる活動の
組み合わせ

定期的なコミュニケーション

全ての関係者の参画

バックボーン組織

変革プロセスを支える
環境・仕組み



参考文献

- ❖ Cabaj, M. and L. Weaver (2016), “Collective Impact 3.0: An Evolving Framework for Community Change,” *Community Change Series*, 1-14. (番野智行・清水潤子監訳, 「コレクティブ・インパクト3.0: コミュニティ変革の実現に向けたフレームワーク進化の提案」)
- ❖ Kania, J. And M. Kramer (2011), “Collective Impact,” *Stanford Social Innovation Review*, Winter, 36-41.